

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	多階層シミュレーションによる新規多様材料プラズマプロセスの量子論的理解
研究代表者	浜口 智志（大阪大学・大学院工学研究科・教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>本研究は、多彩な物質を対象としたプラズマプロセスを量子力学も含む多階層シミュレーションによって理解しようとするもので、世界的にも新しい試みである。このような試みが成功すれば、プラズマプロセスを利用している多くのユーザーに恩恵を与えるだけでなく、学術的にも非常に大きな意義があると考えられる。</p> <p>そのような多階層シミュレーションの実現には多くの困難が予想され、また、既に実現しているというシリコン等の単純な物質の場合の具体的な証拠が示されていないなど、問題点も見受けられたが、バイオ関係者も含む適切な研究チームによって、種々の材料を対象としたプラズマプロセスの総合的理解が進むと期待できるため、基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。</p>